

各 位



平成 27 年 4 月 30 日

会社名 株式会社 ワコム
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 山田 正彦
(コード番号:6727 東証第一部)
問合せ先 取締役兼 CFO 長谷川 渉
(TEL 0120-056-665)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 4 月 30 日開催の取締役会において、従来からの「中期経営計画:WAP1215」の修正版に替えて、平成 28 年 3 月期を初年度とする中期経営計画、「ワコム戦略経営計画 SBP-2019」(英語表記: Wacom Strategic Business Plan SBP-2019) (4 カ年)を決議したことをお知らせいたします。

記

1. 「ワコム戦略経営計画 SBP-2019」策定の経緯

当社グループは、平成 26 年 4 月に、「中期経営計画:WAP1215」(Wacom Action Plan for Changing Platform 1215)の修正版を策定し、グローバルな事業成長を目指す基本戦略は維持しつつ、市場環境の変化等を反映した経営目標を設定しました。しかしながら、その後の市場と経営環境の変化が著しく、当社の事業モデルも大きく変化しつつあります。そのため、今回ワコム戦略経営計画 SBP-2019 を新たに策定することとしました。ビジネスモデルのモバイル、クラウドベースへの進化を軸とする基本戦略を引き続き維持しつつ、平成 27 年 4 月から移行した新たなグローバル事業組織のもとで、グローバル新規市場の開発と既存事業の更なる強化に取り組みます。平成 31 年 3 月期までに連結売上高 1,200 億円、連結売上高営業利益率 12%、連結株主資本利益率 20%以上の達成を財務目標としてまいります。

2. ワコム戦略経営計画 SBP-2019 の概要

中期経営計画の期間

平成 28 年 3 月期～平成 31 年 3 月期 (4 カ年)

財務目標 (平成 31 年 3 月期)

連結売上高	1,200 億円
連結売上高営業利益率	12%
連結株主資本利益率	20%以上

為替想定

1 ドル 110 円
1 ユーロ 130 円

成長のための戦略

当社の成長戦略は、近年のビジネスプラットフォームの急速な変化に対応するとともに、ブランド製品事業とテクノロジーソリューション事業の両事業の成長を加速させることを軸としています。そのため平成 27 年 4 月に、事業組織体制を従来の地域別からユーザベースを軸としたグローバル組織に組み換える機構改革を行いました。さらに現在構築中の IT インフラをグローバルベースで活用することにより両事業の成長を支えてまいります。具体的には、以下の 7 つの戦略を着実に実行し、成果につなげていくことにより成長を実現させてまいります。

※ 平成 27 年 4 月のグローバル組織機構改革に伴い、従来のコンポーネント事業は、テクノロジーソリューション事業に読み替えております。尚、ブランド製品事業、テクノロジーソリューション事業共、事業区分、製品ラインの異動はありません。

① ビジネスモデルをモバイル、クラウドへと進化させる

普及が進んでいるスマートフォン、タブレット等のモバイル情報機器とクラウドコンピューティングによる新しいITプラットフォームに対応するため、当社製品ラインを従来のPC向けからモバイル情報機器分野及びクラウドをベースとしたアプリケーションとサービスを総合したエコシステムへと拡大してまいります。

② 新グローバル事業体制によって統合を強化し成長を加速する

グローバルな事業統合による成長を実現するため、平成27年4月より、従来の地域を中心とした組織から顧客カテゴリー別のグローバルビジネスユニットへの再編を行いました。これにより、地域に関わりなく各事業単位で顧客カテゴリーごとの戦略をグローバルに推進する体制を整え、事業成長を加速させてまいります。

③ モバイル製品ラインの強化、3D市場の拡大、新興市場への投資によってクリエイティブビジネスを加速する

従来のPC向けが中心であった当社の製品ラインに加えて、平成26年3月期より発売を開始したモバイル製品ラインは、今後も高い成長が見込まれています。これらのモバイル製品ラインに引き続き新製品を開発・投入し、市場の拡大を図ってまいります。また、デジタルデザインの最先端分野では3Dモデリングや3Dデザイン、3Dプリンティングといった分野の更なる進化と拡大が見込まれています。さらに、中国、インド、南米地域といった新興地域においてもデザイン産業の拡大が見込まれております。当社はユーザのニーズに応える新製品を投入し、グローバルな市場における事業基盤を強化していくことで、クリエイティブビジネスの積極的な拡大を図ってまいります。

④ 新デジタル文具とクラウド統合で新たなコンシューマユーザを獲得する

近年のモバイル情報機器とソーシャルネットワークの急速な普及と発展によって、コンシューマのオリジナリティと発信力が大きく拡大しつつあります。また、スマートフォンやタブレットに加えて、アイデアを従来の紙とペンと同様に直観的に書きとめて共有できる新たなデジタル文具への

ニーズも高まってきています。当社は、新たなデジタル文具の開発・投入とクラウドと統合された独自のエコシステムを構築し、新たなコンシューマ市場を創出してまいります。また、グローバルなWebコミュニケーションの活用により、コンシューマとモバイルユーザに対するブランド認知を高め、ユーザコミュニティの形成を行ってまいります。

⑤ アクティブES技術とWILL(Wacom Ink Layer Language)により、テクノロジーソリューション事業を拡大する

テクノロジーソリューション事業においては、あらたに量産を開始したアクティブES方式の電子ペンに顧客の注目が集まっています。従来からのEMR方式の電子ペンに加えて技術の複線化を図ることで、顧客に電子ペン採用の選択肢を増やし、市場の創出・拡大を図ってまいります。また当社が開発したWILLは、デジタルインクデータを標準化し、OSの違いを超えて交換や共有を可能とするもので、これによりデジタルインクの利用拡大と電子ペンの更なる普及を促進し、テクノロジーソリューション事業の拡大に寄与することを目指しています。

⑥ WILLとデジタルサインソリューションで、ワークフローとセキュリティ事業を強化する

ビジネスソリューションの分野では、デジタルサインの利用によるワークフローの効率向上と高いセキュリティが注目され、今後の拡大が見込まれています。これらの市場に対して、当社はサインタブレット製品だけでなく、WILLやサイン認証等のセキュリティ技術を活かしたサインソリューションを強化し、より迅速で効率的かつ安全な業務フローソリューションを提供してまいります。ハードウェア・ソフトウェアが統合したソリューションを顧客に提供することで金融・流通分野での浸透を図り、ビジネスソリューションの事業拡大につなげてまいります。

⑦ グローバルビジネスシステムの活用により効率とスピードと収益性を向上させる

現在構築中であるグローバルサプライチェーンやグローバルe-コマースをはじめとした統合ITインフラを、統合的に活用することにより、生産から販売・顧客サポートに至るまでの効率とスピードを大幅に改善し、収益性の向上につなげてまいります。

※ 本中期経営計画に含まれる将来の業績目標につきましては、当社が発表日現在で入手可能な情報に基づいて判断したもので、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより、実際の業績は変動する場合があります。特にテクノロジーソリューション事業は、関連する市場環境や顧客動向の変化が激しく、業績が不安定に推移することが予想されます。当社は、今後も内外の事業環境の変化に応じて、中期経営計画を見直すことがあります。

以上